

リウマチ通信

Vol. 10

平成 26 年 11 月号

リウマチ足変形と痛みの手術治療 切除関節形成手術

関節リウマチを長期間患っている方の中には、趾(あしゆび)の形が大きく変形(外反母趾、重なり趾、曲がり趾など)してきた、もしくは扁平足(べた足)、開帳足(幅広い足)となり歩くときに痛みが出たり、靴などの履物に苦勞する方がおられます。

おそらくは、趾の形や癖を矯正するために、テープ固定を行ったり、趾の間に綿や装具を挟んだりしておられるかもしれませんが。趾や足底に鶏眼(魚の目)や胼胝(たこ)が生じて困っておられる方も居られると思います。このため足底板(靴の中敷)を使用したり、魚の目コロリを貼ったり、削ったりして治療されているかもしれませんが。大きな横幅の広い靴ばかりを履いておられるかもしれません。

いろいろ試してみて、効果がないときは、皮膚や皮だけの問題ではなくて、骨の関与が大きいと考えてよいでしょう。ここまで来ると手術治療しか良い方法はありません。

1回の手術で外反母趾や趾の変形を同時に治療することが可能です。麻酔は、全身麻酔もしくは腰椎麻酔で行うことが可能です。大腿に止血バンドを巻いた状態で手術を行いますので、手術中の出血はありません。輸血も不要です。手術時間も1時間30分ぐらいです。

概略を申しますと、足の裏に横切りの皮膚切開を行い、足の裏側に飛び出してきた骨を削っていきます。骨を削った後に、趾には串型の金具を通しますが、趾の形の躰に使用する(焼き魚の形を整えるために、串が通っている)と思っていただいて結構です。手術の後は、靴型のギプスを巻きます。ギプスを巻いたままで踵を地面に付けて歩くことが可能です。2週間でギプスを巻きなおします。このときに抜糸も行います。

3週間でギプスはずして、この串型の金具は抜いてしまいます。抜くときは、麻酔も不要です。皮膚と金具はくつきません。骨と金具もくつきません。このため金具を抜くときには痛みもほとんどありません。金具を抜いた皮膚は、数日で治ります。趾の形がきれいになり、時間とともに足底の胼胝や鶏眼も消えていきます。歩くときに痛かった趾や足底の痛みは消えています。

手術後は足の形がすっきり(足の大きさが一回り小さくなる)して足幅が小さくなり、楽に靴を履くことができます。痛みも大幅に軽減するので歩くことが楽しくなります。きれいな形の新しい靴を購入する楽しみも出てきます。手術を受けた方の満足度は大きい手術です。両足を患っている方は同時に手術を受けることも可能です。

手術後に踵歩きができれば、自分で動くことができます。そうなれば外来通院もできるため数日で退院する方も居られます。困っておられる方には、よい手術です。



術前

手術直後

抜釘後

(文責 医師 真多 俊博)

人工膝関節手術後のリハビリについて

今回は20年来の関節リウマチをお持ちの方が膝の手術を行い、リハビリを経てとてもよく動けるようになったお話をさせていただきます。

Aさんは、長年のリウマチから手や足に、関節の変形をお持ちで、特に強い膝の痛みが悩みの種でした。手術するには、大変悩んだ末決断したとお話されていました。

まず、リウマチの検査・生物学的製剤の導入を中心とした、2泊3日の短期間の入院で手術に向けて準備を整えました。手術までの間は、入院中にお伝えしたリハビリを行い、訪問リハビリから家屋訪問を行うことで、退院後もスムーズにリハビリを受けられるように万全の態勢で挑みました。

そして、手術によって変形していた膝はまっすぐになり、痛みはなくなりました。左膝など他にも痛む関節があるので、負担をかけすぎないようにリハビリを行いました。全身状態が安定した頃から、生物学的製剤の使用を再開し、他関節の症状緩和を図りました。

Aさんはたくさんの苦勞を乗り越えて、歩くスピードや距離が大幅に延びました。手術前はできなかった階段も昇れるようになりました。

また、手の変形があるため、字を書いたりすることが難しかったのですが、手の装具を同時に検討し、しっかりと握れるような装具を作りました。練習を重ねた結果、鉛筆や毛筆、クレパスを使ってとてもすばらしい作品が出来上がり職員一同とても感動致しました。退院後も訪問リハビリという形でリハビリを引き続き頑張っていっています。



手術前



手術後

(文責 理学療法士 田波 めぐみ)